

年間第3 1 主日

第一朗読 申命記 6・2-6  
第二朗読 ヘブライ 7・23-28  
福音朗読 マルコ 12・28b-34

2024.11.3 9:30 ミサ  
カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

今日の福音では、イエス様が「掟の中で最も大切なものはどれですか」と尋ねられて、このようにお答えになります。「大事な掟は、第一は『イスラエルよ、聞け。わたしたちの神である主は唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くしてあなたの神である主を愛しなさい。』そして第二の掟として、『隣人を自分のように愛しなさい』。これは、最も大切な掟とは、言い換えれば、「わたしたちが信仰生活を送るその目的、それは何ですか。それはこの二つのことを行うためだ」という、そのように受け取って良いのではないかと思います。

では、聖書の中で「神様を愛する」ということはどのようにするのか。それは、神様を神様として大切にすること、つまりは神様の領域に人間が踏み込まないということなんです、聖書が言われているのは。

で、その神様の領域に踏み込まないというのは、例えばこの聖堂でこの壇の上には滅多な人が入れないとか、そういうことではない。これは一つの約束事として、神様の領域に人間はやたらに踏み込まないんだということを、目に見えるとか、動作を通して表現するための一つの約束事ではありますけども、そのことが内容ではない。

では、何か。それは、聖書の一番最初の方の物語、エデンの園の物語で、神様の領域とは善悪と命であるということが、善悪とそれから命の木には人間は手を伸ばすなというふうな掟として表現されているわけです(創世記2~3章)。何が善で何が悪かを人間が自分の都合で決めてはならないし、命の価値というものを人間が勝手に「この命は意味がある、この命は意味がない」と決めてはならないという、そこは人間が自分たちの視点で、あるいは自分の個人の視点で決めてはならないということなんだということです。

そして、それは、その神様の領域を守ることが実は自分自身を愛することにつながるというわけです。なぜならば、自分の価値というものを自分が見えている、その思いで勝手に過小評価してはならないということにつながるわけです。自分の命の価値を勝手に取るに足りないものと決めてはならない。神様から頂いたものとして、良いものとして感謝して受け取る、それこそが神を愛することの一番の内容であると言うことができます。

自分を愛する。ある人にとっては簡単なことかもしれませんが、場合によってはそれが一番難しいことなんだと感じられる方あるいは感じられる瞬間があるかもしれません。ですからこの掟の一番最初に「イスラエルよ」という呼びかけが付いています(申命記 6・4)。

旧約聖書の中で「イスラエル」というのはどういう意味かということが説明されている箇所があります。それは、民の先祖であるアブラハム、イサク、ヤコブのヤコブ——ヤコブが後で名前が変わってイスラエルになりました、と聖書に出てきます。ヤコブは双子の弟で、生まれたときから自分自身の置かれた状況を受け入れることができない人でした。双子でちょっと後から生まれただけなのに、一切の権利がなくて、「嫌だ、嫌だ。こういう状況は嫌だ」と言っていた。「お兄さんだったら良かったのに」という、自分の状況を受け入れられない(創世記 25 章)。でもそのヤコブが人生の中でいろんな苦労に出合って、やがて自分を自分として受け入れる、その時に天使と格闘したという、そういう話が出てきます(創世記 32・23-29)。そして、「天使と格闘したあなたはイスラエルなんだ」——神と戦う、そういう名前なんです、イスラエルが。神様が与えられたその状況と格闘しながら自分を良いものとして受け取っていく、それはある意味で人生の戦いである。だからこそ、「イスラエルよ」と、この呼びかけがあって、そして「あなたの主である神を愛しなさい」と。それは、本当にその人生の苦労の中で自分自身を神様から頂いた良いものとして受け取るためには、そう簡単な歩みではないんだ、本来は。ということが含まれていると思います。そしてそれと同じように他の人々も自分自身を神様から頂いた良いもの、そして自分の命を価値あるものとして受け取るために、互いに助け合えたら良い。それがイエス様の呼びかけなのではないかと思います。

しかし、ここで一言注意 (いつも時々申し上げることですけれども) 注意しなければならないのは、相手を愛するということは決して相手の言いなりになるということではないということです。皆さん、誰かにこう言われたことがあるんじゃないかなと思います。相手の思い通りに行動しなかったときに「愛がない」と言われたりとか、(どうですか)、あるいは逆に、相手が自分の思い通りにならなかったときに「愛がない」と言ったり思ったりしたことはないでしょうか。それは違います。相手をコントロールするための方便、道具として「愛」という言葉は使ってはならないです。

わたしたちは、誰をどのように愛するのかは自分の領域として自分の判断で決めて良いし、そしてそうする責任がある。それを、気が進まないのに他の人の言いなりになるならば、やがてその相手を恨むようになる。それは愛ではないわけです。わたしたちが、一人ひとりが神様から与えられたその自由と責任において行動し、それを互いに尊重し合う。そうして、その中に、わたしたちが互いに断絶するのではなく、しかし互いにもたれ合うのではなく、ともに神様からいた

だいたそれぞれの命を感謝して受け取ることができるように、完全な神様との一致へ向けて愛する、神様を愛することへ向けて歩んでいく歩みをともに支え合うことになるのではないかなと思います。

今日このごミサを通して一人ひとりが神様から頂いた一人ひとりの人生、一人ひとりの命を大切にする、その思いを新たにしながら、人生と格闘する、そのための思いを新たにしながら、お互いのために導きとそして人生の中で神様の恵みを受け取っていくための勇気とそして忍耐の恵みを願い合いたいと思います。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>